令和元年度 沖縄地方ダム管理フォローアップ委員会
議事要旨

１．日時：令和２年１月３１日（金）１４：３０～１７：００

２．場所：沖縄総合事務局２F 災害対策室

３．出席：津嘉山委員長、大城委員、神谷委員、金城委員、下地委員、諸喜田委員、
立原委員、古里委員

４．議事：「福地・新川ダム 定期報告書（案）」

５．主な意見

〇利水補給

・統合運用の効果について、給水制限日数の減少など、定量的な算定をしてみてはどうか。
・下流河川への放流については、生物生息環境や生態系にも配慮してフラッシュ放流などを取り入れてみてはどうか。
・事前放流には、利水面のリスクも考慮した上で検討する必要がある。
・治水の観点からだけでなく利水の観点からも予測雨量の精度を検証した方がよい。
・渇水に対する埋没便益の評価方法についても検討してみてはどうか。

〇堆砂

・堆砂の進行が計画より遅いのは良いことではあるが、計画や計測方法について誤解を受けるような表現は避けたほうが良い。
・ダムが赤土の流出を抑制し、サンゴ礁を守っているともいえる。これらの効果についても示してみてはどうか。

〇水質

・現時点で水質面で大きな問題はないとなっているが、貯水池底層の溶存酸素が低下しやすい状況であることから、底泥からのリンや鉄の溶出に注視し、下流河川への影響について必要に応じて監視をしていくほうが良い。

〇生物

・福地ダムでは特定外来種であるアメリカザリガニの侵入とともに、メダカの減少がはじまった。フナも近年は小型個体が少なくなったため、今後の動向を注視する必要がある。
・福地ダムのリュウキュウアユは２万個体を超えたあたりで収容能力の限界になりつつある。増えたことで不安定な個体群になっていることも注記しておくべきである。
・福地ダム貯水池では、過去にシャジクモが確認されていたはずである。人造湖でシャジクモが生育しているのは極めて珍しいため、確認調査を実施してみてはどうか。
・回遊性甲殻類が継続的に確認されていることは良いことである。どのような経路で遡上降河しているのかを確認していただきたい。